保護者の皆さんへ

お子さんの 学力向上 のために 大切なこと

学びを支えるスクラム

これからの社会が、どんなに変化して予測困難になっても、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現してほしい。そして、明るい未来を、共に創っていきたい。

そうした願いが込められている学習指導要領の趣旨を実現するために、東京都教育委員会では、小学校第４学年から中学校第３学年までの児童・生徒を対象に「児童・生徒の学力向上を図るための調査」を実施し、子供たちの学習意欲や学習の進め方など、学びに向かう力等に関する意識を把握し、分析しています。

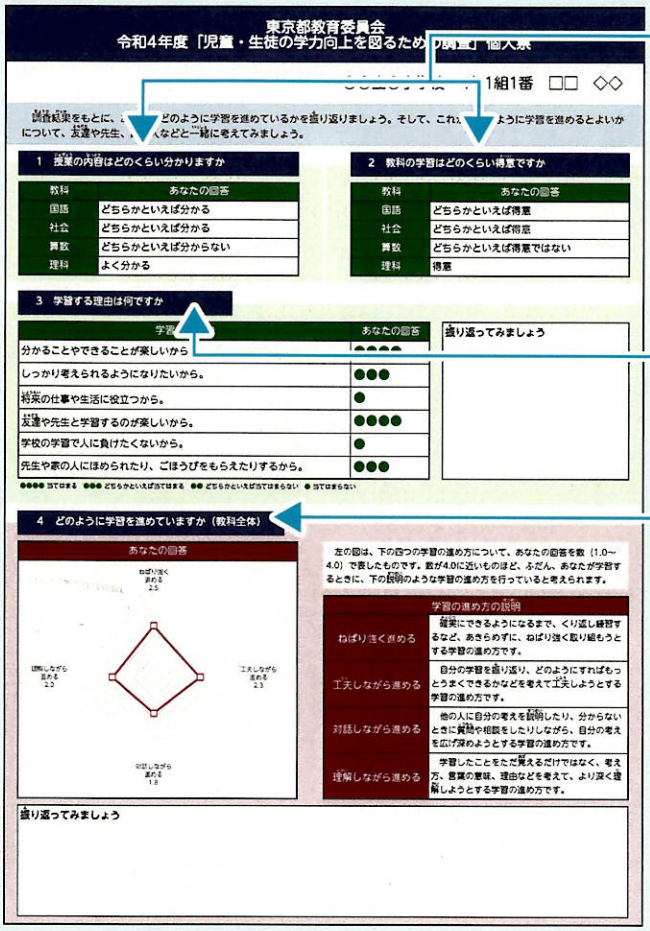
各学校では、この調査結果を活用し、子供たちの学習に関する意識の状況を明らかにし、日々授業改善に取り組んでいます。

この「お子さんの学力向上のために大切なこと」では、調査結果を踏まえ、お子さんの学習や生活について御家庭で取り組んでいただきたいことを紹介しています。ぜひ御活用いただき、お子さんの学びへのより一層の御支援をお願いいたします。

令和４年12月　東京都教育委員会

① 調査結果（個人票）の見方

令和４年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」では、調査に回答した小学校第４学年から中学校第３学年の児童・生徒の皆さんに、次のような個人票を返却しました。昨年度の結果と比べることで、学習の進め方の変化を確認することもできます。



「1　授業の内容はどのくらい分かりますか」と「2　教科の学習はどのくらい得意ですか」

お子さんは、授業の内容について、どのくらい理解していると考えているでしょうか。また、各教科の学習について、どのくらい得意であると感じているのでしょうか。

お子さん自身による自己評価の結果から、自分の学力や学習状況をどのように捉えているかについて確認することができます。

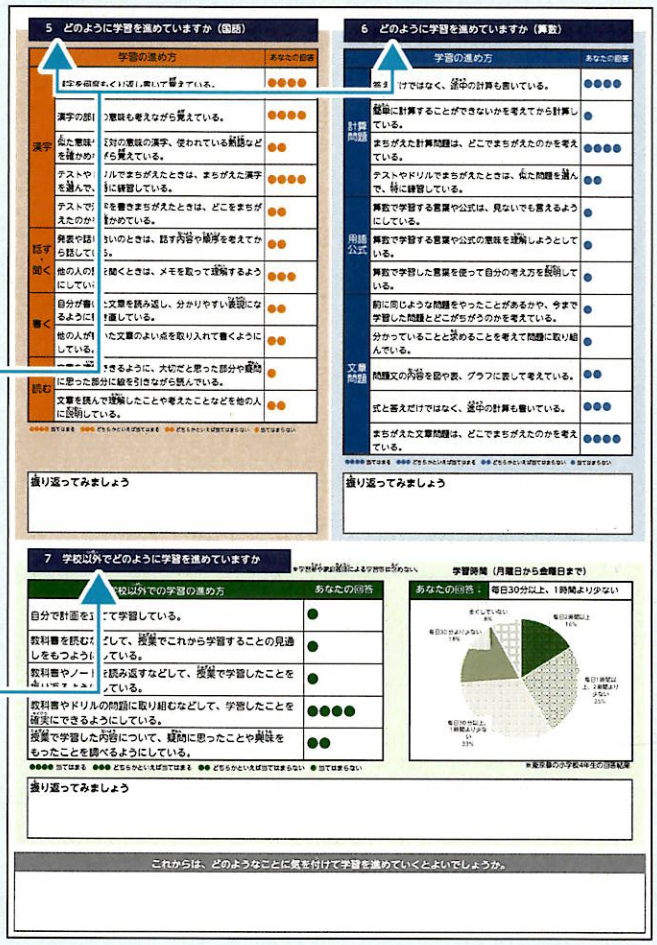
「3　学習する理由は何ですか」

自分が学習する理由について、お子さんがどのように考えているのかを確認することができます。

「4　どのように学習を進めていますか（教科全体）」

学習の進め方には、どのような特徴があるのでしょうか。

「ねばり強く進める」、「工夫しながら進める」、「対話しながら進める」、「理解しながら進める」という四つの点から、その特徴を捉えることができます。



「5　どのように学習を進めていますか（国語）」「6　どのように学習を進めていますか（算数）」

漢字の学習は、どのように取り組んでいるのでしょうか。

算数の用語や公式の学習は、いかがでしょうか。

調査結果と、普段取り組んでいる小テストや単元テスト、学力調査等の結果とを比べながら、「どのような学習の進め方が、成果や課題につながっているのか」について、お子さんと一緒に考えることができます。

「7　学校以外でどのように学習を進めていますか」

学校以外で、どのように学習に取り組んでいるのでしょうか。自分で計画を立てて学習しているでしょうか。

調査項目に示された内容は、家庭学習の改善を図るための参考にすることができます。

※この個人票は、小学校第4学年から小学校第6学年までの内容を示しています。

② 学習の進め方と授業の理解の程度との関係

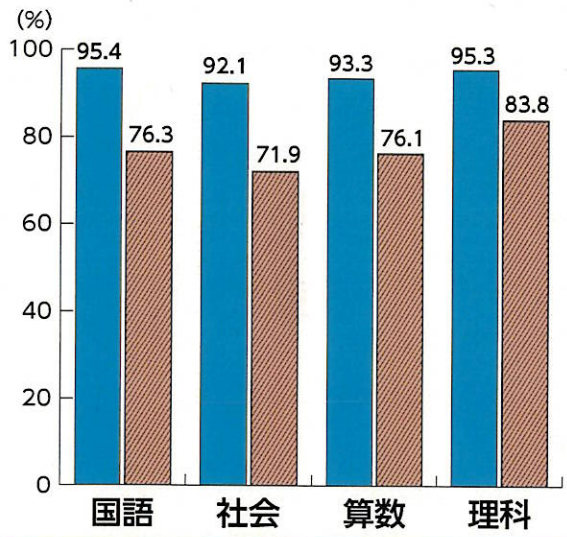
令和４年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」児童・生徒調査の結果から

※小学校第4学年から第6学年までの児童の回答結果をまとめたもの

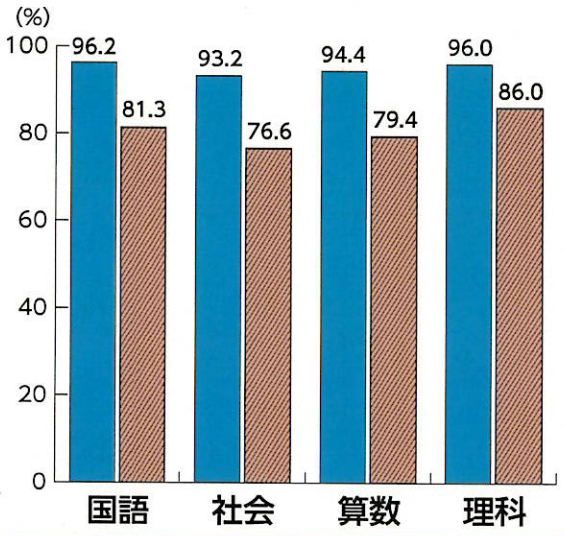
次のように学習を進めている児童は、授業の内容を分かると感じる傾向がみられます。

- ◆ 大切な言葉や公式などは、意味を理解して覚えるようにしている。
- ◆ 問題の答え合わせをするときに、答えが合っているかどうかだけではなく、その問題の考え方も確かめている。

大切な言葉や公式などは、意味を理解して覚えるようにしていることと授業の理解の程度との関係



答えだけではなく、考え方も確かめながら学習していることと授業の理解の程度との関係



その学習の進め方をしている児童のうち、授業を分かると感じている児童の割合
その学習の進め方をしていない児童のうち、授業を分かると感じている児童の割合

※ その学習の進め方をしている児童……それぞれの学習の進め方について、「当てはまる」又は「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童
※ その学習の進め方をしていない児童…それぞれの学習の進め方について、「当てはまらない」又は「どちらかといえば当てはまらない」と回答した児童
※ 授業を分かると感じている児童……各教科の授業の内容について、「よく分かる」又は「どちらかといえば分かる」と回答した児童

家庭で学習するときも、大切な言葉や公式の意味を理解して覚えたり、テストで間違えた問題を振り返って、その問題の考え方などを確かめ、理解したりすることが重要です。昨年度（令和３年度）の調査結果でも、同様の傾向がみられました。お子さんの学習の様子を見て、自分で効果的に学習を進められるように、声を掛けてみましょう。

次のページからは、お子さんが、効果的な学習の進め方を身に付けられるように、家庭で取り組むことができる支援の例を紹介します。

③ お子さんの学習を家庭で支援する取組例 国語

〔調査の結果〕

ア「ろくが」の正答率	
東京都(公立)	全国(公立)
67.5%	65.2%

イ「はんせい」の正答率	
東京都(公立)	全国(公立)
61.9%	58.7%

ウ「したしむ」の正答率	
東京都(公立)	全国(公立)
67.8%	67.1%

これらの調査結果から、漢字を文や文章の中で使うことに課題があることが分かりました。

漢字の学習において、**どのように学習を進めることが大切なのでしょうか。**

「令和4年度全国学力・学習状況調査」小学校国語 3 三の問題

島谷さんは、習っている漢字がひらがなになっていた――部**ア、イ、ウ**を漢字に書き直すことにしました。次の――部を漢字でていねいに書きましょう。

南さんは、みんなにそうじ用具の正しい使い方を知ってほしいという思いをもち、正しく使うことができている学級の様子をアろくがして、各学級にしょうかいしたそうです。

正答…「録画」 誤答例…「緑画」など

そして、当番の日に水やりをするだけで、南さんのように、みんなのために新たな活動を提案できなかったことをイはんせいしました。

正答…「反省」 誤答例…「反成」、「反生」など

運動が苦手な人もウしたしむことができるように、ルールや道具をくふうした、おに遊びやボールゲームを各学級にしょうかいしたいです。

正答…「親(しむ)」 誤答例…「下(しむ)」など

テストやドリルで間違えたときには間違えた漢字を学習し直し、学習内容を定着できるようにすることが大切です。その際、漢字辞典等を活用するなどして、漢字の部首を考えたり、漢字の意味や使われている熟語などを確かめたりすることができるように、声を掛けてみましょう。

漢字のテストで、「録」という漢字を間違って「緑」と書いてしまったよ。

「録」という漢字と「緑」という漢字は、形が似ているから間違いやすいね。保護者会のとき、担任の先生が、「漢字を学習するときは、その漢字の意味を調べたり、その漢字が使われた言葉を集めたりして覚えることも大切です。」とおっしゃっていたよ。

間違えた「録」という漢字を、漢字辞典で調べてみるね。「ロク」と読めるから、「音訓さくいん」で調べよう。

【ノートの例】

録

音読み ロク　訓読み ―　画数 十六画　部首 かねへん

意味 ①書きしるす。書きしるしたもの。 ②音声や形を、うつしとる。

集めた漢字 記録、語録、採録、住所録、収録、新記録、登録、付録

録音、録画、記録、住所録…。「録」という漢字がつく言葉は、「何かを書きしるす。」とか「何かをうつしとる。」というような意味のものが多いことが分かったよ。調べたことをノートにまとめてみよう。

【漢字辞典の記載例】

金 8-8画

【録】 16画 4年

音 ロク　訓 ―

意味 ❶書きしるす。書きしるしたもの。 ❷音声や形を、うつしとる。

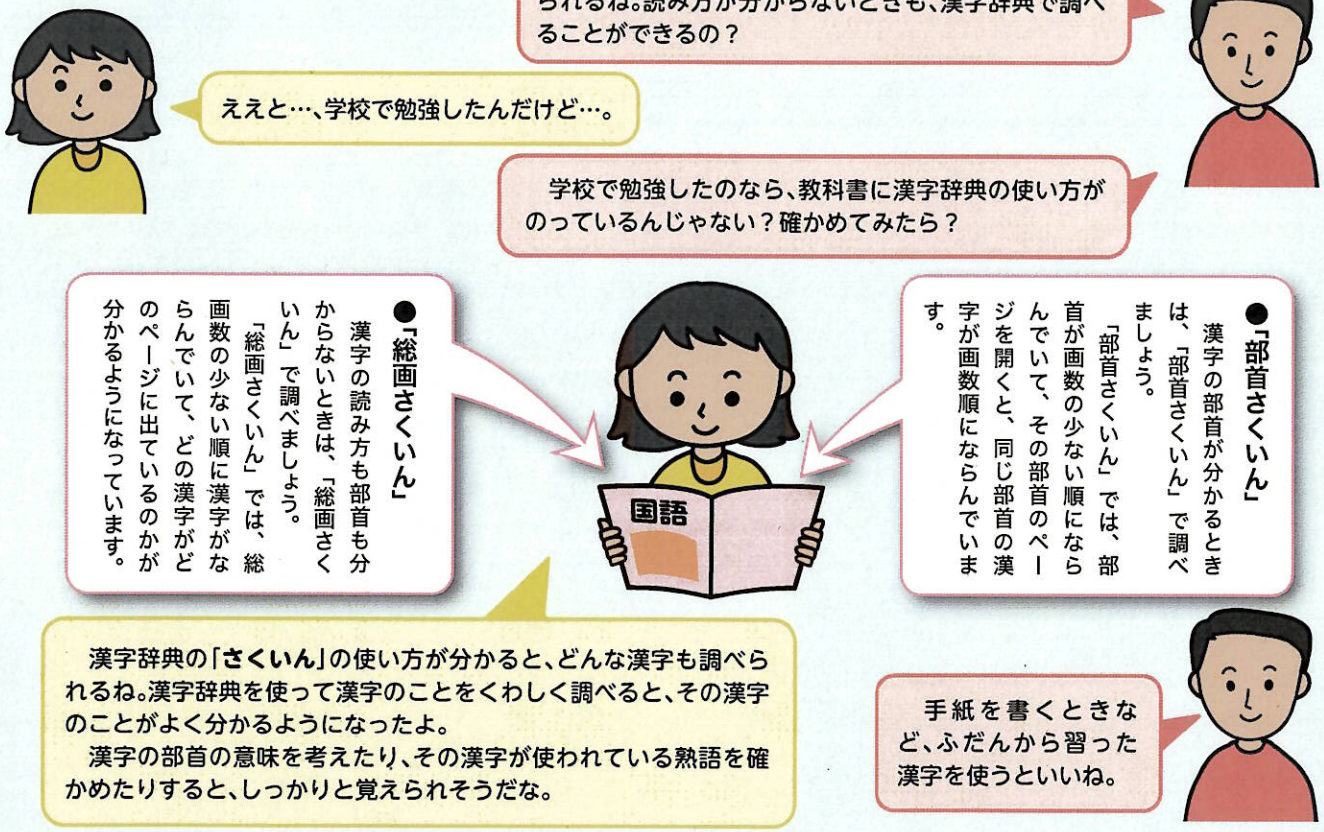
【録音】ろくおん　CDやハードディスクなどに、音や声などを記録すること。

【例】インタビューを録音する。

【録画】ろくが　映像をDVDやハードディスクなどに、記録すること。

【例】テレビドラマを録画する。

熟語 記録・語録・採録・住所録・収録・新記録・図録・登録・備忘録・付録・目録

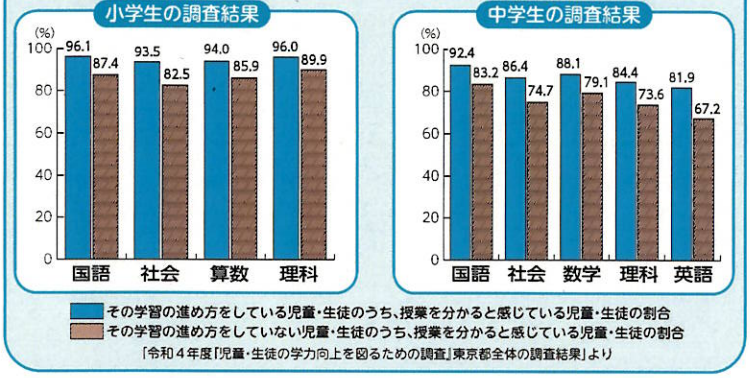


漢字の学習では、同じ漢字を繰り返し書いて覚えることにとどまらず、漢字の部首の意味を考えたり、使われている熟語などを確かめたりしながら覚えることも大切です。

また、漢字を正しく読んだり書いたりするとともに、語彙を広げるためには、辞書を利用して調べる習慣を付けることも大切です。御家庭で、分からない言葉などがあったときは、「自分で辞書や事典を使って調べてごらん。」と声を掛けてみましょう。

コラム　分からない言葉があったときは自分で調べる習慣を付けることが大切

学習していて分からない言葉があれば、すぐに調べるようにしていることと授業の理解の程度との関係



「令和４年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」東京都全体の調査結果」より

小学校では、主に３・４年生において、国語辞典や漢字辞典の使い方について学習します。また、必要なときにはいつでも辞書が近くにあり使えるように様々な工夫をしています。事典の利用については、目的に応じていろいろな種類の事典を選んだり、目次や索引を利用して情報を得たりできるよう指導しています。

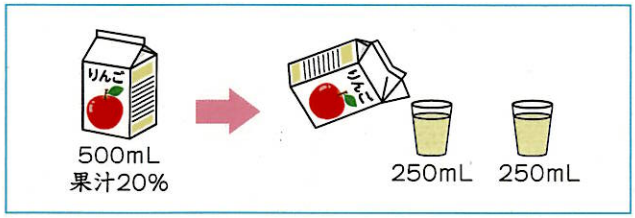
都の学力調査の結果から、「学習していて分からない言葉があれば、すぐに調べるようにしている。」という学習の進め方を行っている児童・生徒は、各教科の授業を分かると感じる傾向がみられることが分かりました。

小学校段階から、分からない言葉や疑問に思った言葉があったときに、辞書や事典、教科書などを使って調べる習慣を付けることが大切です。

④ お子さんの学習を家庭で支援する取組例 算数

「令和４年度全国学力・学習状況調査」小学校算数 2 (3)の問題

りんごの果汁が20%ふくまれている飲み物が500mLあります。
この飲み物を2人で等しく分けると，1人分は250mLになります。



250mLの飲み物にふくまれている果汁の割合について，次のようにまとめます。

250mLは，500mLの $\frac{1}{2}$ の量です。
このとき，［　　㋐　　］

上の㋐にあてはまる文を，下の1から3までの中から1つ選んで，その番号を書きましょう。

1　飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると，果汁の割合も $\frac{1}{2}$ になります。
2　飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると，果汁の割合は2倍になります。
3　飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になっても，果汁の割合は変わりません。

〔調査の結果〕

正答「3」を選択している児童の割合	
東京都(公立)	全国(公立)
29.1%	21.4%

誤答「1」を選択している児童の割合	
東京都(公立)	全国(公立)
62.5%	67.9%

「1」を選んだ児童は、果汁が20%含まれている飲み物を二人で等しく分けたとき、飲み物の量が半分になると、同様に果汁の割合も半分になると誤って捉えていると考えられます。日常の具体的な場面に対応させながら、割合について理解できるようにすることが大切です。

そのためには、**ふだんからどのようなことを意識することが大切なのでしょうか。**

お子さんが、日常の具体的な場面と、学校の授業等を対応させて考えることができるよう、声を掛けてみましょう。

どちらのコップに入っている飲み物も濃さは一緒かな？

同じ入れ物に入っていた飲み物だから、分けても変わらないよ。

本当に濃さが変わっていないのかな。説明できる？

飲んでも同じ味だから、変わらないよ。

どうしてそう考えたのかな？

どうしてって言われても…。

自分の考えを説明できるように工夫して声を掛けてみましょう。

学校で習ったことを思い出して、自分の言葉で説明できるかな？

まず、それぞれのコップに入っている飲み物の量は半分になるから、果汁の量も半分になるよね。

そうだね。例えば、果汁20%の飲み物500mLを半分にしたときは、どう考えられる？

それぞれのコップに入っている飲み物の量は、250mLになるね。果汁の量は…。

果汁20%の飲み物500mLには、どのくらいの果汁が含まれているかな？

500×0.2＝100で100mL入っているよ。

そうだね。そうしたら、果汁20%の飲み物500mLを半分にしたときは、果汁の量はどうなるかな？

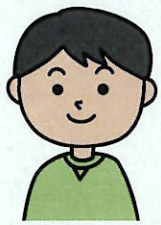
それぞれのコップに入っている飲み物の量は250mLで、果汁の量は半分になるから50mLになるね。飲み物の量に対する果汁の量の割合を求めると、どちらも50÷250=0.2で、20%になる。ということは、分ける前と後で割合は変わらないから、濃さも変わらないね。

学校で習った言葉で説明できたときには、認めるようにしましょう。また、その言葉の意味を理解していない様子が見られるときは、教科書の索引などで調べるように声を掛けてみましょう。

「濃さ」というのは、学校で習った「割合」という言葉を使って説明できるんだね。「割合」という言葉の意味は分かるかな？

言葉で説明することは難しいな。

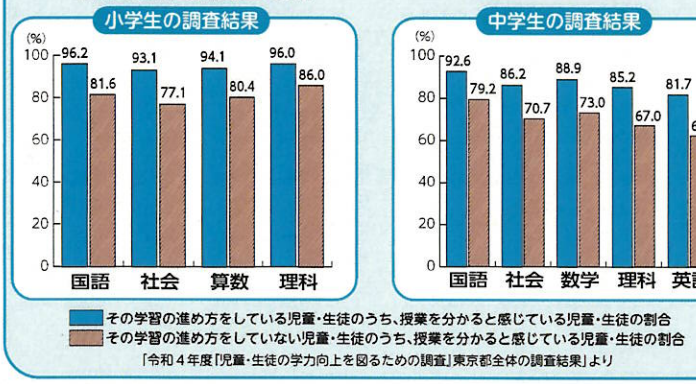
教科書の後ろに「**さくいん**」があるのは知っている？大切な言葉の意味は、そこから調べることができるようになっているよ。



本当だ。今度から、分からない言葉があったら、教科書の「さくいん」で調べてみるよ。

コラム　どうしてそうなるのかという理由を考えながら学習することが大切

どうしてそうなるのかという理由を考えながら学習していることと授業の理解の程度との関係



「令和４年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」東京都全体の調査結果」より

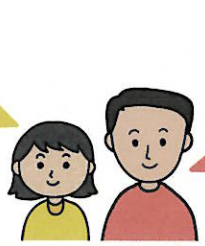
小学校では、授業で学習した言葉を使って自分の考え方を説明できるように指導しています。他の人に説明する際、算数で学習した表現を使うことによって、自分の考えをより分かりやすく説明できる、と実感できるよう工夫しています。

都の学力調査の結果から、「どうしてそうなるのかという理由を考えながら学習している。」という学習の進め方を行っている児童・生徒は、各教科の授業を分かると感じる傾向がみられることが分かりました。

また、どうしてそうなるのかという理由を説明することは、頭の中が整理され、そのことが本当に理解できているかを確かめることにつながります。日頃から自分の考えを誰かに説明する機会を作るようにすることが大切です。

⑤ お子さんとの会話を充実させるポイント

伝えたい内容を言葉で表現できるようにしたいとき



お子さんの伝えようとする気持ちを大切にしながら、話の内容を要約したり、別の表現に言い換えたりするなどして、お子さんが自分の伝えたい内容にふさわしい表現を考えられるようにすることが大切です。

お子さんが伝えようとしていることを受け止め、要約したり、言い換えたりするなど、表現のヒントを示しましょう。

難しい課題を解決できるようにしたいとき

保護者の方が、すぐに解決方法を示すのではなく、解決への見通しをもたせたり、うまくいかない原因を振り返らせたりするなどして、お子さんが自分で解決できるようにすることが大切です。

お子さんの様子を見ながら、解決の見通しをもたせたり、それまでの取組を振り返らせたりしましょう。

筋道立てて自分の考えを説明できるようにしたいとき

保護者の方が納得できたとしても、他の人も同じように納得できるとは限りません。当たり前と思えることでも、理由や根拠を確かめるなどして、お子さんが自分の考えを筋道立てて説明できるようにすることが大切です。

お子さんの考えたことについて、そのように考えた理由や根拠を確かめましょう。

- □ お子さんの顔を見て、会話をしましょう。
- □ うなずいたり、受け止めの言葉を発したりするなど、積極的に聞いている姿勢を示しましょう。
- □ お子さんの話を、最初から否定しないで聞きましょう。
- □ お子さんの話を、最後までさえぎらずに聞きましょう。

お子さんが、保護者の方に安心して自分の考えを伝えられるように、左のようなことにも気を付けてみましょう。

令和５年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」のお知らせ

調査実施日 令和５年５月から６月までの間
（詳しくは、後日、学校からお知らせがあります。）

調査対象

都内全公立小学校	第４学年～第６学年
都内全公立中学校	第１学年～第３学年
都内全公立義務教育学校	第４学年～第９学年
都内全公立中等教育学校	第１学年～第３学年

右の二次元コードから、「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果を閲覧することができます。

調査内容 児童・生徒の学習意欲や学校・家庭での学習の進め方など、学びに向かう力等に関する意識を調査

調査方法 児童・生徒用のパソコンやタブレット端末を用い、ウェブシステムを通じて回答